

- ② 傷病者情報共有システムを導入
- ③ フレイル予防の活動を支援
- ④-⑤ **特集** 小さな命に寄り添う
共に暮らし、生きる
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ

デジタル広報配信 アプリは「マチイロ」「カタログポケット」 ネットは「マイ広報紙」

山奥にたたずむ 幻の滝

春先に黄色い花を咲かせるミツマタの群生地、七沢・不動尻。その山奥には息をのむ風景が広がっている。谷太郎川に注ぐ豊かな水が18段の高さから流れ落ちるこの滝の名は「白滝」。深い緑の木々が、しぶきを上げる水流に彩りを添えている。

案内なしではたどり着けないことから、いつしか「幻の滝」と呼ばれるようになった白滝。絶景をその目で見るためには、過酷な道中を進まなければならない。バス停や駐車場のある広沢寺から歩いて1時間。不動の滝や大滑滝などの名所を越えた先の山道は目標の地へ近づくほどに険しさを増し、道なき道へと姿を変えていく。ロープや木の根、岩を頼りに歩を進めると、6段ほどの急斜面が行く手を阻んだ。岩壁に垂れたロープを握り、地を踏みしめながら進むと、白い生糸を紡ぐように流れ落ちる滝が姿を現した。静寂を裂くような水音に心が洗われる。

私たちの暮らす厚木には、手つかずの美しい自然が静かに眠っている。

Q Zoom Up

医療機関との連携を強化

傷病者情報共有システムを導入

救急搬送の迅速化と医療機関との情報共有の強化を図るため、傷病者の症状や個人情報情報を医療機関と即時に共有できるシステムを10月に導入します。音声で文字化する生成AI機能も搭載。タブレット端末を活用し、より円滑な救命活動につなげます。

昨年、市内の救急出動件数は1万4978件。過去最多を記録し、高齢化が進化する今後も増加が見込まれています。一刻を争う救急現場で一人でも多くの命を救うため、傷病者の情報を迅速かつ正確に医療機関へ伝えるシステムを10月20日から運用します。

ICTの活用で救急搬送を支援

新たなシステムでは、救急隊員が傷病者の情報をタブレット端末に入力。傷の状態や本人確認書類を撮影し、医療機関と画像やデータ化された個人情報などをリアルタイムで共有します。

これまでの救急現場では、必要な情報を口頭でやり取りして手書きで記録することに時間を要していました。システムの導入により、医療機関は現場の状況を画像などで正確に把握。生成AIによる音声認識機能を搭載し、現場での会話や傷病経過などの音声を自動で文字に起こします。活動記録を作成する救急隊員の作業負担を大幅に軽減し、傷病者への対応に専念できるようになります。

救急救命課の白井玲路さん(48)は「救急隊と医療機関の連携を深め、より安心・安全な救急搬送につなげていく。搬送の際には、端末を使った撮影

に協力してほしい」と呼びかけます。

命を守る応急手当で

救命率を向上させるためには、119番通報から救急隊が到着するまでの適切な応急手当が重要です。消防本部では、いざという時に落ち着いて対応できるよう、定期的に心肺蘇生法や自動体外式除細動器(AED)の使い方を学べる講習会などを開催しています。9月9日は「救急の日」。この機会に、命を救うための応急手当でや心構えを改めて見直しましょう。

☎救急救命課 223-9365



タブレット端末で隊員の負担を軽減

新システムのポイント

1 タブレットで情報をリアルタイム共有

傷病者の状態を入力し、本人確認書類や傷などの写真を搬送先と共有。
※救急隊員が情報の収集に向け、撮影許可をお願いする場合があります。

2 搬送までの時間を短縮

現場の状況を正確に共有できるため、搬送先の決定や病院での引き継ぎにかかる時間を短縮。

3 生成AIが救急隊をサポート

現場での口頭報告などを生成AIが自動で記録し、報告書の作成などを支援。



無料 9月9日は救急の日 大切な命を守るために

救急の現場では、周囲にいる人の行動が重要です。イベントや講習会で、応急手当やAEDの使い方などを学びませんか。☎救急救命課 223-9365

あつぎ救急フェア

展示や体験を通して救急の大切さを学べるイベントです。

日時 9月5日 9～14時
会場 アツギトレリス中庭・1階(戸室5-31-1)

内容 AEDを使った心肺蘇生法の体験、救急車・ミニ消防車の展示、救急服の装着体験など

☎不要。



応急手当普通救命講習会

万が一に備え、心肺蘇生の手順や機器の使い方などが学べます。



日時 9月28日 9～12時 **会場** 消防本部
内容 応急手当の重要性、心肺蘇生法、AEDの取り扱いなど
対象 市内在住在勤在学の中学生以上30人
☎9月1～10日に救急救命課へ。抽選。☎

こころ、元気ですか？

9月10～16日は 自殺予防週間

心の疲れや悩みは一人で抱え込まず、まずは相談してください。
☎健康医療課 225-2201



いのちのサポート相談 無料

電話や対面で、臨床心理士に相談ができます。

日時 ①9月7日、13時～②24日、9時～③10月5日、13時～(各回50分)

会場 保健福祉センター **対象** 市内在住の方
☎前日までに健康医療課へ。

自殺予防週間に合わせた展示

アミューあつぎ、保健福祉センター＝パネル展示
中央図書館＝心が疲れた時などにお勧めの書籍を紹介

ゲートキーパー養成講座 無料

身近な人が発する心のSOSサインに気付き、声をかけ、話を聴く方法などが学べます。開催日などの詳細は健康医療課へ。



リーフレット「こころ、元気ですか？」

心の健康や福祉、子育て、生活などの相談窓口を案内する冊子です。公共施設で配架しているほか、市HPからも閲覧できます。





講師に教わりながら体操に取り組む

いきいき百歳体操

体操を継続して実施する団体の活動を支援します。

いきいき百歳体操とは

座って重りを使用する介護予防のための体操。週に1、2回の実施を継続することが効果的。

■支援対象団体

- ・市内在住の65歳以上が5人以上いるグループで、自主的な活動ができる10組（先着順）
- ・週1回以上かつ3カ月以上継続できる
- ・会場、重りなどの準備ができる など

■支援の流れ

- ①地域包括ケア推進課に電話で問い合わせ
- ②開始支援
1カ月に最大で4回、専門職が体操を指導。市に団体登録申請書を提出して活動を開始。
- ③継続支援
体力測定や講座を実施。
- ④追加支援
年1回のアンケートなどで活動状況を把握。



詳細はこちら

Q Zoom Up

心も体も健康に

フレイル予防の活動を支援

年齢を重ねても生き生きと暮らすためには、運動の習慣と社会参加が大切です。市では大学と連携し、介護予防に向けた講座を開催。受講者同士が、健康づくりに向けた活動を地域で続けられるよう支援しています。

自主的な健康づくりを支援

年齢と共に心身の活力が低下し、健康と要介護の間にある状態をフレイルといいます。予防するためには、日常的な体づくりや健康的な食事、社会とのつながりを持つことが重要です。神奈川工科大学と連携して開催している「フレイル予防セミナー」では、介護予防に向けた講習などを実施。本年度からは年齢を問わず筋力を付けられる「いきいき百歳体操」も伝授し、高齢者の皆さんの健康維持に向けた取り組みを手助けしています。

活動を継続するために

セミナーに参加している高野恒美さん（78・温水西）は、「栄養に関する話を聞くことができ、普段の食事にも気軽に取り入れられそうだなと思った。運動だけではなく、食事にも気を遣っていきたい」と話します。

フレイルを予防していくためには、健康づくりに向けた地道な取り組みの継続が重要です。市では本年度、いきいき百歳体操を自主的に始めるグループの支援もスタート。活動の開始に当たっての体操指導や体力測定などを通じ、地域での活動を後押ししています（左欄参照）。そのほか、健康状態を見直すきっかけづくりとして、体力測定などが受けられるフレイルチェックを実施。参加者が自らの状況を正しく知り、フレイルも防ぐための機会を提供しています。

今後も市民の皆さんが自分たちの健康状態を把握し、自主的に介護予防に取り組んでいくための活動を支援していきます。

☎地域包括ケア推進課 ☎25-2388

参加
無料

100歳まで元気でいよう！

フレイル予防セミナー

- 日時** ①11月6・20日、12月4・18日、1月8・15・22日・29日、2月5・12日 10～12時
②11月13・27日、12月11・25日、1月8・22・29日、2月5・12・26日 13～15時

- 会場** ①金田東老人憩の家（金田775-10）、
②小町山グリーンホーム（小野2240-1）

内容 運動などを学ぶ「フレイル予防セミナー編」（全4回）、体を動かして楽しむ「いきいき百歳体操基礎編」（全6回）
※終了後は、「いきいき百歳体操実践編」を週に1回開催

対象 次の要件を満たす市内在住で65歳以上の方 各20人

- ①全10回の講座に参加できる
 - ②講座終了後も地域の仲間と体操を継続することに関心がある
 - ③徒歩や自転車で会場まで通える
- ※要介護認定を受けている方は要相談

☎9月15日～各会場初回の10日前までに申し込みフォームまたは神奈川工科大学地域共創研究センターフレイル予防支援室 ☎271-8328へ。先着順。



講座詳細はこちら



申し込みフォーム
はこちら

幼稚園・認定こども園

入園願書

受け付け開始

市内には17の幼稚園・認定こども園があり、それぞれの園で個性豊かな教育が行われています。

入園願書配布 10月15日～
願書受け付け 11月1日～

※詳細は市HPに記載。願書の配布方法や入園手続きは各園で異なります。

《施設の概要》

幼稚園

小学校以降の基礎をつくる教育施設。朝・夕の預かり保育も実施。

認定こども園

幼稚園と保育所の機能を持つ施設。



詳細はこちら

☎こども育成課 ☎225-2262



個性を見極めて計測



特徴をまとめたメモ



車いすに乗りうれしそうに駆け出す

木口さんが、犬用の車いすを作り始めたのは23年前。近所の人からヘルニアで歩けなくなった犬を助けるための依頼を受けたのがきっかけでした。市販の犬用車いすを参考に、義肢装具士として働いていた経験や知識を生かして作り上げると、少しずつ評判が広まっていきました。「当時、犬の車い

経験を動物に生かす

「脚が長いですね」「もう少し高くしてあげた方が楽に歩けそうだ」。力強い声が、タイヤやパイプが並ぶ工房に響きます。真剣なまなざしを犬に向け、体を計測しているのは木口光儀さん。動物用の車いすを作る「ポチの車いす」の代表です。

いつまでも元気な体で

ポチの車いす
代表 木口 光儀さん(67)

すを作る人はほとんどいなかった。予想以上に依頼が多く、必要とされているのだと思つて会社を立ち上げた」と振り返ります。

車いすを必要とする犬は、病気や事故によるけがなど理由はさまざまです。「犬の個性に合わせた車いすを作り、歩きたいという思いを後押ししてあげたい」と話す木口さん。脚や胴の長さに合わせるだけでなく、活発な子には大きく、おとなしい子には安定して動けるようにと、性格に応じてタイヤの位置やパイプの長さを調整。世界に一つしかない完全オーダーメイドの装具です。完成した車いすに乗せられて、すぐに部屋の中を歩き出す犬の姿を眺める木口さん。「楽しそうに駆け出す様子を見るのが一番の幸せ」と笑

特集 小さな命に寄り添う

共に暮らし、生きる

9月20日から26日までは動物愛護週間。ペットと野生を問わず、動物は私たちの生活に身近な存在です。特集では、動物に愛情を注ぎ、ひたむきに取り組む人たちの姿を追いました。
生活環境課 ☎225-2750

動物にも人にも優しさを

ツナグしっぽ
代表 山岡 直子さん(72・元町)

キャットタワーやケージが並ぶ部屋で、数匹の猫の元気な鳴き声が聞こえてきます。優しく子猫を抱えるのは山岡直子さん。野良猫の保護や動物愛護活動をする人たちが集まる「ツナグしっぽ」の代表として、行き場を失った猫を保護して新しい家族の下へ送り出しています。

すぐに動ける環境づくり

山岡さんが活動を始めたきっかけは、清川村で犬猫の保護活動をする「しっぽ村」との出合いでした。東日本大震災の被災地でボランティアに参加した山岡さんは、現地で犬猫の救助・給餌活動をする団体の存在を知りました。幼い頃から犬や猫に囲まれ、ペットと共に生活してきた山岡さん。「自分の身を顧みずに動物を助ける人の姿を見て、力になりたいと思った」と振り返ります。

山岡さんは7年前、しっぽ村での活動をスタート。保護した動物の譲渡や相談対応などのさまざまな活動を積み重ねてきました。一方で市内からの保護依頼も多く、対応に時間がかかるこ



一匹一匹に寄り添う山岡さん

とに頭を悩ませていました。「地元で困っている人や猫の下へ素早く駆け付けたい」と、5年前、市内にツナグしっぽを設立。現在は20代から70代までの10人が所属し、活動に汗を流しています。

安心して暮らせる家へ

野良猫の相談が入り保護が必要と判断した場合、周囲の状況などを確認して捕獲器で保護します。保護した後は年齢や健康状態によって必要な治療や不妊・去勢手術を済ませ、元いた場所に戻すか人に慣らして譲渡会で里親を探します。「保護や世話の方法で悩むことも多い。しっぽ村の専門家に今でもアドバイスをもらっている」と、山岡さんは試行錯誤を続ける中での思いを語ります。

寿町にある事務所の一室で開催する月一回の譲渡会には、毎回15組ほどの里親候補が訪れます。新しい家族の下で猫が健康に暮らしているよう、帰宅時間や家族構成、近くに預かってくれる人がいるかななどを丁寧に確認。迎える人と決めた里親には約二週間のトライアル期間を設け、猫と一緒に過ごして

寄り添う心

「人を思いやる心が、動物への優しさにつながる。困っている人たちのよいところになりたい」と話す山岡さん。保護活動だけでなく、動物に関する相談も受け付けています。最近では、飼い主の身に何か起きた場合の飼育方法やペットのみとりに関する内容が多く、ゆつくりと話を聴いて交流を深める場所にもなっています。ペットのことで困っていることやつらいことがある人は相談してほしいと、動物を飼う人の心に寄り添います。

「保護が必要な動物を一匹でも減らすため、市内に犬や猫を保護できる施設を造りたい」。人と動物が安らげる地域をつくるため、山岡さんは一匹一匹に愛情を注ぎます。

9月20～26日は動物愛護週間

動物が好きな人も苦手な人も、動物との共生を考えてみませんか。

■ペットを飼う時

- 生活や経済状況を考え、最期まで愛情と責任を持って飼う
- 繁殖を望まない場合、不妊・去勢手術を受けさせる
- 動物から人に感染する病気の知識を持つ
- 鑑札やマイクロチップ、足環などを着ける
- 災害時の一時預かり先の確保や車中避難など、避難方法を事前に検討し、必要な物を確認する

■猫の望まない繁殖を防ぐ

猫は生後6カ月ほどで発情が始まり、年数回の発情期を迎えます。不妊・去勢手術は、病気や感染症の予防、ストレス軽減にもつながります。

■猫の不妊・去勢手術費用を助成

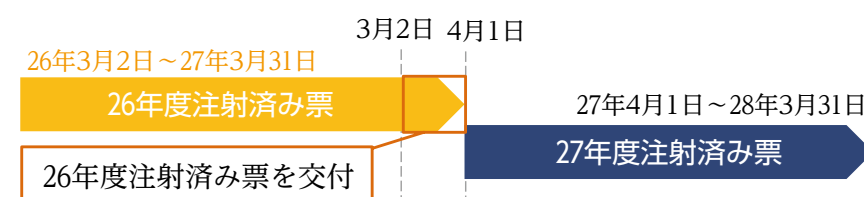
手術費用の一部を助成しています。
《金額》雄＝3000円 雌＝4500円



詳細はこちら

狂犬病予防注射の制度が変わります

- 2027年3月2日から狂犬病予防法施行規則の一部が改正されます。
《変更点》
- ・3月2日から31日までに接種した場合、当該年度の注射済み票を交付
 - ・4月1日から6月30日までの接種期間を廃止し、通年の接種が可能に



27年3月2日から31日までに接種した場合、26年度の注射済み票が交付されます。27年度の注射済み票が交付されるのは、4月1日以降の接種となるので注意しましょう。



動物から愛を学ぶ

東京農業大学 農学部動物科学科 教授
増田 宏司さん(52)

動物は素直で、相手を思いやるのが得意な生き物です。愛することの手本になり、私たち人間に愛情表現の仕方を教えてください。動物を飼い始める時にはケージやトイレなどの生活環境の準備はもちろん、散歩や世話の時間が取れるかなどを考えることが大切です。動物を飼うことは命を預かるということ。飼い主は最期まで責任を持って飼いましょう。動物を飼っていない人でも保護団体への寄付やボランティア活動など、できることはたくさんあります。動物愛護週間をきっかけに「愛する」とはどういうことかを考え、まずは自分のことから始めてみましょう。

入場無料

ツナグしっぽde 保護猫譲渡会 in 地下道

保護された猫を迎えてみませんか。

10月17日 11時～14時30分

会場 本厚木駅前東口地下道

内容 保護活動のパネル展示、保護猫との面会

☎不要。

☎ツナグしっぽ ☎090-1060-2225



譲渡会では実際に猫と触れ合える



性格や健康状態を紹介

7年ぶりの創作オペレッタ

たまがわ芸術鑑賞会



上演されたオペレッタ

玉川地区に伝わる昔話を題材に創作されたオペレッタなどを上演する「たまがわ芸術鑑賞会」が、8月8日に文化会館で開かれました。鑑賞会は、玉川地区の地域住民が主体となって企画して開催されました。

当日は、七沢の民話「久助ばなし」を俳優の原田大二郎さんが朗読。その後、歌と演奏によって構成されるオペレッタ「久助のひとりかご」を7年ぶりに上演しました。公民館を利用するサークルやゆかりの音楽家たちによる歌や演奏も披露され、会場からは大きな拍手が送られました。

鑑賞会を楽しんだ新倉恵子さん（82・旭町）は「地元の文化を知る良い機会になり、楽しめた」と話していました。

市内中学生がベネクスで休養の科学を学ぶ

「あつぎ未来塾」が開講

地元企業や大学で「本物に出会う体験」を中学生に提供する「あつぎ未来塾」が、8月5日から始まりました。市内中学生11人が参加し、リカバリウェアを手掛けるベネクスの中村太一社長らから、休養の科学や起業家精神などを学びました。

未来塾は、中学生の能力や才能を開花させ、将来を考えるきっかけとするための新たな取り組み。企業・大学が7回にわたって講義を展開します。初回となったこの日は、休養が心身の健康に与える影響、新しい価値を生み出すための考え方などを伝え、生徒たちが熱心に耳を傾けていました。

講義を受けた厚木中学校2年の高崎樹さんは「新商品の企画を考えたり、実際の商品に触れたりすることができて楽しかった」と、普段は経験できない学びに目を輝かせていました。



説明を真剣に聴く中学生たち

環境みどり公社が協力

広場の草刈りにラジコンを活用

地域で管理する広場を効率的に手入れしているとうと市環境みどり公社が7月、ラジコン式草刈り機などを使った除草作業を厚木南地区で実施しました。

レクリエーション活動などに利用される広場の管理は、高齢化や酷暑の影響で地域住民たちの負担となっていました。市長と自治会長が対話する「タウンミーティング」で課題が共有されたことをきっかけに、機械を所有する同公社が協力。複数の草刈り機を駆使し、約3万平方メートルを半日かけて刈り取りました。

作業を見守った旭町3丁目第2自治会の中下俊夫会長（81）は「暑さが増す中で作業が負担となっていた。機能性の高い機械で短時間に刈ってくれて助かった」と笑顔で話しました。



斜面でも楽々と除草する

こどもたちが体験

文化会館で「あつぎ伝統芸能フェス」

厚木に伝わる伝統芸能を親子で体験できる「あつぎ伝統芸能フェス」を、7月27日に文化会館で開催しました。会場には多くの家族連れなどが訪れ、民俗芸能や和楽器の体験を楽しみました。

イベントは、地域に受け継がれてきた伝統を次世代につないでいこうと初めて実施。神楽や人形芝居、さらさら踊り、能楽、狂言、和楽器などの担い手たちが、参加者に丁寧な手ほどきをしました。

家族で参加した高橋祥子さん（42・妻田南）は「普段、触れる機会の少ない伝統芸能をこどもに体験させられてよかった」。息子の諒丞さん（6）は「みんなと太鼓を打って楽しかった」と喜んでいました。

8月にも、こども向けの和楽器教室を実施。今後も伝統芸能に触れられる場をつくっていきます。



ステージで和太鼓をたたくこどもたち

みんなの力でまちを元気に

あつぎの市民活動

ボランティアなどの社会貢献活動を支援するため、市民活動団体の登録制度を導入しています。連載では健康・スポーツ・文化芸術・福祉など、さまざまな分野の市民活動団体を紹介していきます。

8 NPO法人多言語広場セルラス・厚木ピアザ

多言語や異文化に親しめる場として2013年に設立しました。毎週金曜日に下古沢老人憩の家で活動し、親子で6カ国語に触れながら、ゲームやロールプレイなどを楽しんでいます。

海外へのホームステイなどの国際交流を通して、人との出会いやつながりを深め、多文化への理解やコミュニケーション力を育みます。地域に「言葉と人が育つ環境」をみんなで作っています。



サマーキャンプ体験を報告

団体の詳細や問い合わせを希望する方は
市民協働推進課 ☎225-2101へ。

団体の一覧は
こちら



「私は希望を教えてください」。10月2日に公開を迎える市制70周年記念映画「キリコのタクト・YELL」で、鈴木京香さん演じる伝説の音楽教師が放った一言です。私の母校で的一幕に心が躍りました。

昨年8月から市内オールロケで撮影され、あつぎ愛を胸に多くの市民の皆さんが出演・協力してくれました。現場では緊張感の中にも出演陣が笑顔で交流する姿があり、厚木ならではの温かさを感じたところで

出演者一人一人との縁やつながりによって生まれた作品です。皆さんのふるさとへの愛着や誇りを深めるとともに、全国、全世界から憧れを抱かれる「希望」に満ちたまちづくりへの活力になることを願っています。

い街並みや豊かな自然、人々の息遣いなどが、活字でどう表現されているのかにも注目です。皆さんが小説を手にとれるよう、中央図書館や公民館の図書室に配架。映画への期待をさらに高めてまいります。



小説を手にとる監督と

す。今月13日には、文化会館で市民向け先行上映会を開催。なんと1万人を超える申し込みがあり、作品への関心の高さに驚きました。

8月5日には、メガホンを取った雑賀俊朗監督が、自身の書き下ろした原作小説を寄贈してくださいました。厚木の美しい街並みや豊かな自然、人々の息遣いなどが、活字でどう表現されているのかにも注目です。皆さんが小説を手にとれるよう、中央図書館や公民館の図書室に配架。映画への期待をさらに高めてまいります。

タウンガイド

9月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

10月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 FAX=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
 📅=講座予約システム
 愛TV 9/1~ =市広報番組あつぎ愛テレビ
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「玉川のサルスベリ」

#8月7日撮影
 #玉川
 #百日紅
 #niceatsugi
 市公式インスタ
 グラムで公開中



あつぎストリートフェス (市民協働提案事業)

9月19日、17時30分～19時30分。
 中町花の公園。ミュージシャンによるストリートライブ。無料。☎不要。☎文化魅力創造課☎225-2508。

野鳥の池に生息する生物を調査しよう

9月27日、①9時30分～12時＝ばうさいの丘公園。池に生息する生き物の捕獲②13～15時＝東京農業大学厚木キャンパス。捕獲した生物の観察、解説など。市内在住在学の小学3年生以上20人（小学生は保護者同伴）。無料。①のみの参加も可。☎電話またはEメールに〒住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を書き、9月11日までに環境政策課☎225-2749・✉3100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。

あつぎ郷土博物館展示物の解説

9月5日、14～15時。あつぎ郷土博物館。博物館実習生による研究

発表や展示の解説。無料。☎不要。
 ☎あつぎ郷土博物館☎225-2515。

保護者セミナー「こどもを受け容れ、見守る」

10月7日、18時～19時30分。あつぎ市民交流プラザ。講話と情報交換。こどもの学校生活に心配事や気になることがある保護者など20人。無料。☎9月1日～10月6日に青少年教育相談センター☎225-2520へ。先着順。

市民ふれあいマーケット出店者

家庭で不用になった品物を販売する出店者を募集します。
 11月14日（雨天中止）、9時30分～14時。厚木中央公園。日用雑貨や衣料品など（手作り品、食品、動植物は不可）の販売。市内在住の方92組（高校生以下は不可）。500円（出店料）。☎9月25日（消印有効）までに、往復はがきに〒住所、参加者全員の氏名、日中に連絡が取れる電話番号、Eメールアドレス、販売品目、自動車の有無

工作や体験などを通して、楽しくSDGsを学べます。

☎企画政策課☎225-2450



あつぎSDGsフェスティバル

日時 9月26日 10～16時
 会場 あつぎ市民交流プラザ
 内容 スタンプラリーや巨大防災すごろく、あゆこちゃん体操など

同時開催 eスポーツ交流会

時間 10～16時
 内容 人気ゲームを用いたeスポーツ体験
 いずれも無料。☎不要



SDGs
フェスティバル



eスポーツ
交流会

人気のスポーツやニュースポーツを楽しもう

無料 スポーツレクリエーションフェスティバル

さまざまな種目に参加してスタンプラリーに挑戦すると、景品がもらえます。

日時 9月19日 10～15時

会場 荻野運動公園

持ち物 室内履き

☎不要。



種目

- 屋外 グラウンド・ゴルフ、モルック、ペタンク、ティーボール、サッカー教室
- 屋内 卓球、ニュースポーツ(セストシューターなど)、バドミントン、体力測定、健康マージャン、フェンシング教室

■雨天の場合はモルック、ペタンクのみを実施

☎スポーツ魅力創造課☎225-2531



詳細はこちら

(1店舗1台まで)、車種、ナンバー、返信先を書き、〒243-8511資源循環推進課☎225-2793へ。抽選。

青少年発明コンクール作品展示

9月12～28日。本厚木駅前東口地下道。市内の小・中学生が夏休みに作った発明品を展示。☎不要。
 ☎産業振興課☎225-2830。

9月10日は「屋外広告の日」・9月1～10日は「屋外広告物適正化旬間」

屋外広告物の適正な設置・管理の啓発のため、期間中にパトロールを実施します。良好な景観形成と安心・安全なまちづくりに協力をお願いします。☎都市計画課☎225-2401。

年末年始のテニスコートの利用

市内4カ所のテニスコートが使えます。
 《期間》①12月29～31日②2027年1月1～3日、9～17時《場所》厚木、南毛利スポーツセンター、荻野運動公園、若宮公園のテニスコート。☎①9月1日②10月1日から公共施設予約システムへ。抽選。
 ☎行政経営課☎225-2160。

市議会副議長が決定

8月6日の市議会第4回会議で、副議長に山崎由枝氏（公明党）が選出されました。



山崎氏は、環境教育常任委員会委員長や総務企画常任委員会副委員長などを歴任。3期目。65歳。棚沢在住。☎議会議総務課☎225-2700。

みんなの声でつくるまち

《パブリックコメント》
 本厚木駅北口周辺公共空間ガイドラインの策定

《閲覧期間》9月15日～10月15日
 《閲覧場所》市街地整備課、市政情報コーナー、公民館、本厚木駅・愛甲石田駅連絡所、保健福祉センター、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、市HP《応募方法》閲覧場所にある用紙に掲載。☎市街地整備課☎225-2851。

厚木市 市民参加

検索

野外彫刻造形展・みんなで青空を作ろう 青空アート展ワークショップ

参加者募集

塗料をキャンバスへ自由に注いで作る「ポーリングアート」を体験できます。

☎文化魅力創造課☎225-2508

日時 11月4日 13～15時

会場 あつぎ市民交流プラザ

定員 16人

費用 1000円

☎9月1～30日に講座予約システムへ。先着順。📍



詳細は
こちら



ホット

インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集中
 厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報シティプロモーション課☎225-2043

8月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆盆踊り大会は、夏休みの思い出の一つ。こどもの頃にやぐらを囲んで踊ったのを思い出した／60代男性
 ◆特色ある児童が多い中、インクルーシブ支援員の力がとても大切／60代女性 ◆手厚い子育てで支援を誇りに思う。さらに進化させてほしい／70代以上男性 ◆災害が起きた時、自治会や地域とのつながりが大切だと思った／40代女性 ◆子育てしながらでも気軽にジャズに触れられるイベントがあってうれしい／50代女性

編集後記

取材の中で、動物と関わる人の柔らかい表情が印象に残っています。動物と目を合わせると誰もが顔をほころばせ、優しい手つきで小さな命と触れ合っていました。なでられた犬や猫もうれしそうにしている、動物に愛情を持って接することが、動物からの愛情を受け取ることにもつながるのだと思います。今回の特集が動物を大切にして、絆を深めるきっかけになればうれしいです／亀山



大花火大会

10日 17時40分～
会場 相模川三川合流点

有料観覧席チケット販売 発売 9月1日 10時～

打ち上げ場所に近い河川敷で約1万発の花火が楽しめます。

販売場所 セブンイレブン全店・セブンネット

価格

■厚木側 SS席(2人)=3万3000円 S席(2人)=2万2000円
4人席=2万円 2人席=1万1000円

■海老名側 5人席=1万8000円 4人席=1万6000円
3人席=1万3000円 2人席=9000円

「みんなの花火」の募金 期間 9月30日まで

フィナーレを飾るスターマインを皆さんで打ち上げませんか。

受け付け

商業観光課、公民館、本厚木駅・東丹沢七沢観光案内所、市内郵便局、市観光協会

第80回
あつぎ
鮎まつり
10月
10・11日

市内最大のイベント「あつぎ鮎まつり」が今年から10月に開催。花火やたくさんの催しで、市内を盛り上げます。

問 商業観光課 ☎225-2820



最新情報はこちら
愛TV 9/1～

オープニングセレモニー・パレード

10日 13時～
会場 中央通り・厚木なかちょう大通り



民謡総おどり

10日 14時30分～15時
会場 厚木なかちょう大通り



市民出店村

10日 9～20時、11日 9～17時
会場 厚木中央公園
内容 飲食など約70店舗が出店



Atsugi Dance Legend

10・11日 9～17時
会場 厚木中央公園



こども鮎つかみどり

11日 ①9時～②10時30分～③12時～
会場 相模川三川合流点
対象 市内在住の年長～小学6年生 1000人
■9月8日までに市公式LINEまたは市HPから申し込み。抽選。



みこしショー

11日 14時～15時15分
会場 厚木なかちょう大通り



同時開催

DREAMフェスタ2026 会場 厚木公園
11日 11時～19時10分 内容 縁日や灯籠上げなど
問 厚木青年会議所 ☎224-8716

あつぎ鮎まつり絵画コンクール

祭りの思い出を描いた作品を募集します。
募集期間 10月13日～11月13日
対象、作品の規格などの詳細は市HPを確認。
詳細はこちら



自然歳時記

●キアシシギ●
シギ科

全長は25センチほど。真っすぐなくちばしを持ち、背中、灰褐色と足の黄色が目立つ旅鳥。「ピューイ」と鳴きながら群れで生活する。／愛甲付近を流れる玉川の川辺で見つけた。

写真・文／吉田文雄



川縁を歩いていると、「ピューイ、ピッピピ」と鳴き声が聞こえてきた。何と美しく澄んだ声だろうと双眼鏡で姿を探すと、遠くにキアシシギがいた。「ピッピ」と小さく鳴き、上流へと飛んでいった。他にも3羽いたが、水中の昆虫を食べ、上流へと向かって

いった。様子を見に後を追うと、仲良く群れて羽を休めていた。キアシシギは、シベリアの寒帯や亜寒帯で繁殖しているらしい。春と秋に旅鳥として集団で日本に渡ってくる。季節に応じてさまざまな国を渡り、お互いを見守りながら群れで暮らしている。

厚木市の人口
(8月1日現在)



世帯数 10万5945世帯 (前月比5世帯減)



22万2282人 (前月比98人減) 男11万4433人・女10万7849人